進路ニュース

第７号　２０２３年１１月１３日発行

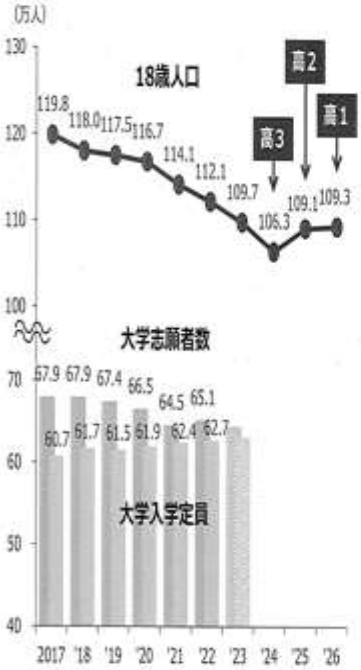
～１８歳人口減も、安定志向はみられず～

●２０２４年度　入試動向特集

参考資料：ベネッセ第２回出願指導研究会・河合塾第２回大学入試情報分析報告会

受験人口減により大学志願者は減少期に

● 18歳人口・大学志願者数の推移



2024年度の状況

18歳人口

2024年度はここ数年で最大の減少幅（−3.4万人）

2017～24年で約13万人減

大学志願者数

大学志願率は上昇基調が続くも、2024年度は緩やかな減少が見込まれる

大学入学定員

理工系や情報系などを中心に拡大

大学全体で増加が見込まれる

受験人口が減少する中でも国公立大の志望者数は減少幅が小さい

第１回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試の受験者数は受験人口の減少の影響もあり、対前年指数95と減少した。国公立大の志望者数は対前年指数98、私立大は94となっており、受験者数が減少する中でも国公立大の志望者数は減少幅が小さくなっている。教科型別の受験者数をみると、５－８文系が96、私文３教科が95であるのに対し、５－７理系は97、私理３教科は96となっており、理系の受験者数の方が指数がやや高くなっている。

新課程を控えた安全志向はあまりみられていない

国公立大全体の志望者数は対前年指数98であるが、設置区分別にみると国立大の志望者数は対前年指数97、公立大は99となった。大学群別にみると、難関国立10大の志望者数は対前年指数96、ブロック大は99、その他の国公立大は98となった。2024年度入試は現行課程における最後の入試となるため、安全志向が強まりやすい環境にあるが、現時点では新課程を控えた安全志向はあまりみられていない。ただし、共通テストの平均点の変動などにより今後の志望変更も考えられる。

難関国立10大では偏差値60台の志望者数は減少幅が小さい

難関国立10大の偏差値帯別の第一志望者数をみると、偏差値60以上65未満の志望者数は対前年指数99と前年並、偏差値65以上70未満の志望者数は対前年指数97とやや減少となっており、医学科や東京大などを除くとC判定やB判定となる層の志望者数は大きく減っていない。このことからも新課程を控える中でも積極的に難関大にチャレンジしようとする受験生が多いといえよう。

理系人気の傾向が弱まる

国公立大では全体の志望者数の対前年指数98に対して、経済・経営・商学、医学、歯学、理学、農・水産学系統などの指数が上回った。一方で、人文科学、語学、生活科学、薬学系統などでは志望者数の減少がめだった。近年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、医療系の学部系統で志望者数の増加が続いていたが、現３年生では医学系統の人気は継続しているものの、薬学系統では人気に落ち着きがみられる。

私立大では全体の志望者数の対前年指数94に対して、経済・経営・商学、社会学、国際関係学、医学、理学、農・水産学系統などの指数が上回った。一方で、語学、法学、生活科学、歯学、薬学系統などでは志望者数の減少がめだった。

近年は理系人気の傾向が続いていたが、現３年生では国公立大・私立大ともに明確な理系人気の傾向はみられなくなっているといえよう。

国の施策 大学改革の推進と支援

教育未来創造会議「第一次提言」では、未来を支える人材育成に向けて、大学に変化を求めており、主体的な改革を進める大学には国から支援するとしている。文部科学省の次年度概算要求にも組み込まれており、大学を取り巻く環境はこの数年で大きく変わろうとしている。

①デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を推進

- 学部再編等による成長分野への転換支援
- 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化を支援　など

②文理横断教育の推進、STEAM教育の強化

- 文理横断観点による入試科目の見直し
- レイトスペシャライゼーション、ダブルメジャーなどの取組支援　など

- 数理・データサイエンス・AI人材（文理横断的なデジタル人材）育成の推進

③理系分野等での女性活躍推進

- 女子学生の確保等に積極的に取り組む大学への支援強化　など

④成長分野への産学連携強化や、学部等卒業後の人材受入強化

- 地域中核・特色ある研究大学の強化促進
- 「出口での質保証」の強化　など

国公立大　入学定員増と選抜区分別募集人員割合変化

国公立大では情報系を中心に入学定員が増加する。選抜区分別にみると総合型・学校推薦型選抜で募集人員が増加し、一般選抜の募集人員割合は１％ダウンの76％となる。

入学定員増

▶**魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増**
金沢大（+35名）

▶**大学・高専機能強化支援事業支援2による定員増**
北海道大（+50名）
東北大（+40名）
東京工業大（+40名）
電気通信大（+30名）
金沢大（+75名）
岡山大（+30名）
愛媛大（+30名）
佐賀大（+30名）
大分大（+40名）　など

▶**公立大の定員増（学部新設による純増を含む）**
周南公立大（+200名）
高知工科大（+70名）　など

募集人員の総合型・推薦型へのシフト

2024年度入試　国公立大
選抜方法別募集人員の割合と変化

募集人員の変化
前期：　＋59人
後期：　－106人
中期：　－25人
総合型：**＋252人**
推薦型：**＋564人**

総合型・推薦型を増員した主な大学
金沢大（+96名）
東京工業大（+78名）
周南公立大（+61名）など

大学の動き　定員増、総合型・学校推薦型選抜の拡大、女子枠の設置進む

▶**大規模な入学定員増**：理工系学部を中心とした顔ぶれ並ぶ

▶**総合型・学校推薦型選抜の拡大（A）**：
名寄市立大、会津大、信州大（繊維、医－保健）、島根大（法文）、鹿児島大（農）など

▶**女子枠の拡大・新設（B）**：
名古屋工業大、熊本大（情報融合）

▶**女子枠の新設に伴い、総合型・学校推薦型選抜を拡大する大学（A＆B）**：
北見工業大、東京工業大（理、工を除く）、金沢大（理工）、山梨大（工）、大分大（理工）

学部新設や入学定員の増加が多くみられる

近年、情報系の学部の新設が続いており、さらに2024年度入試では大学・高専機能強化支援事業が始まったことを背景に、情報系の学部の入学定員の増加が多くみられる。この支援事業は、デジタル・グリーン等の特定成長分野への学部再編や高度情報専門人材の確保のための機能強化などを支援するものであり、今後も情報系の学部新設や入学定員の増加を後押ししていくと考えられる。増員があった募集単位については、入試難易度の変動が予想されるため、今後の動向に注目したい。例えば、東京工業大の情報理工学院では入学定員が92人から132人に増員される。一般選抜では、前期日程の募集人員が86人から112人に約３割増加されることとなるが、現時点の志望者指数は91であり、このままの動向が続けば易化することが予想される。